

平成29年度

授業改善推進プラン

立川市立立川第五中学校

国語科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 授業に対しては、集中して学習に取り組んでいる生徒が多く見られる。授業評価アンケートでは「授業の学習内容に興味・関心がある。」に対し、「そう思う」「まあそう思う」と回答した生徒の割合が 94% となっている。
- ② 話し合い活動については、積極的に取り組む生徒が多く見られるが、消極的な生徒も中には見られ、「授業中の話し合いや発表などに進んで取り組んでいる。」に対し、「そう思う」「まあそう思う」と回答した生徒の割合が 92% となっている。

(2) 定期テストの結果より

観点ごとの正解率はそれぞれ「読むこと」では 67%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では 50% となり、学習したことを家庭学習で繰り返し取り組んだ生徒と、あまり時間をかけなかった生徒の得点差として表れている。

(3) 生徒による授業アンケートより

家庭での学習の状況としては、「家庭での学習方法を理解している。」に対し、「そう思う」「まあそう思う」と回答した生徒の割合が 73%。「テスト前など家庭での勉強を行っている。」に対し、「そう思う」「まあそう思う」と回答した生徒の割合が 88% であった。定期テストの対策以外の学習方法の理解や学習の定着が必要であると考えられる。

(4) 領域別テストの結果より

「聞き取り」や「文学的文章の読解」については、全受験者と本校との正答率に差は見られなかった。「説明的文章の読解」や「文章表現」では、それぞれ 3.7%、4.8% 全受験者を下回る結果となった。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 生徒の興味・関心を高める導入の工夫
- (2) 文章を適切に読み取り、対話によって自分の考えを深める
- (3) 学習の振り返りによる、学習内容の定着

4 授業の改善策

- (1) 生徒の興味・関心を高める導入の工夫をし、主体的な学習を推進していくために、ICT 機器を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める教材の提示をさせていく。
- (2) 文章を適切に読み取り、対話によって自分の考えを深めるために、意図的に毎授業で協働的な学習を取り入れ、自らの考えを構築し表現する力を付けられるようにしていく。
- (3) 学習の振り返りによる、学習内容の定着を図るために、毎授業で目的とその授業で学習した内容や今後につなげていきたいことを確認し、生徒が共有できるようにしていく。

国語科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① おおむね授業には真剣に取り組んでいる。書いたり話したりすることに対して積極的な姿勢が見られる一方で、文章に正対して深く考えることに苦手意識をもっている生徒もいる。
- ② 読書量には差があり、積極的に読書を行う生徒とほとんど読まない生徒の二極化が顕著である。
- ③ 提出物の提出状況はおおむね良好であるが、未提出の生徒が限定されている。

(2) 定期テストの結果より

- ① 学級による差はあるが、定期テストの「読むこと」の正答率は、64%である。
- ② 定期テストの結果の度数分布は、やや中央に寄った山型であった。授業中に学習した内容については、一定程度の理解が見られる。

(3) 東京都「生徒の学力向上を図るための調査」の結果より

全体の結果としては、「A教科の内容」では1.8ポイント、「B読み解く力に関する内容」では7.4ポイント東京都平均を下回った。観点別にみると、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「知識・理解」では、東京都平均を上回る結果であった。一方、「読み取る力」では10.6ポイント下回っている。

(4) 生徒による授業アンケートより

授業の進め方については、おおむね「適切である」という解答であった。教科に対する生徒の取り組む姿勢については、おおむね積極的な回答を示していた。家庭学習に関する設問については、積極的な回答をした生徒が70%を下回り、宿題などの提出物以外に家庭での学習を習慣付けることが課題である。

(5) 領域別テストの結果より

- ① 全国平均達成率と比べると、全体では2ポイントの差がある。「聞き取り」「漢字の読み書き」「語句・文法」については、全国平均とほぼ同等であるが、その他の項目では下回っている。特に「説明的文章の読解」では約7ポイントの差がある。
- ② 度数分布表は平均を頂点とした左右対称の山型である。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 生徒の興味・関心を高める導入の工夫
- (2) 文章を適切に読み取り、対話によって自分の考えを深める
- (3) 学習の振り返りによる、学習内容の定着

4 授業の改善策

- (1) 生徒の興味・関心を引き出すために、ICT機器を使用し視覚資料の提示をする。
- (2) 自分の考えを深めるために、4人組での話し合い活動を行う。
- (3) 学習内容の定着のために、授業や単元の終わりに学んだことについての振り返りを行う。

国語科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

① おおむね授業には真剣に取り組んでいる。授業評価アンケートでは「授業の学習内容に興味関心がある」及び「授業の学習内容に興味関心がある」に対し、「そう思う」「まあそう思う」と回答した生徒の割合が 90%を超えている。授業ノートの作りにおいて、板書を写すだけでなく自分なりの気付きや疑問点をメモすることができる生徒も増えてきている。

② 提出物の提出状況はおおむね良好であるが、未提出の生徒が限定されている。

(2) 定期テストの結果より

観点ごとの正解率は「書くこと」では 61%、「読むこと」では 56%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では 73%となった。特に漢字の問題の正答率が昨年度は 50%を下回っていたのに対し、今年度は 70%を超えていた。家庭での漢字の学習方法が定着してきたことがわかる。

(3) 「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」の結果より

全体の結果としては、「A主として知識」では 3.4 ポイント、「B主として活用」では 5.2 ポイント全国平均を下回った。記述式の解答形式をとる問題において、課題を読み取って要約して書くようなものに比べ、読み取った内容について自分の感じたことや考えを書くものは無回答率が高かった。筆者の主張を捉え、それに対する自分の意見を述べることを学習し直す必要がある。

(4) 生徒による授業アンケートより

家庭での学習の状況としては、「家庭での学習方法を理解している。」に対し、「そう思う」「まあそう思う」と回答した生徒の割合が 60%。「テスト前など家庭での勉強を行っている。」に対し、「そう思う」「まあそう思う」と回答した生徒の割合が 82%。約 2 割の生徒は家庭学習の目的が定期試験のためになっている事が分かった。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 生徒の興味・関心を高める導入の工夫
- (2) 文章を適切に読み取り、対話によって自分の考えを深める
- (3) 学習の振り返りによる、学習内容の定着

4 授業の改善策

- (1) 視覚的で分かりやすい教材を提示するために、ICT 機器を取り入れるとともに、言語活動で生徒が積極的に参加できるようにグループで共同的に問題を解したり、プレゼンテーションなどの発表の場を設けたりする。
- (2) 小論文や意見文を書く際には、問われていることに正対させるよう指導していく。また、書く力の育成のために作文活動の時間を確実に確保する。

社会科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 集中し、積極的に授業に取り組む生徒が多い。授業評価アンケートからも「授業中、他のことはせず、集中して取り組んでいる」に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が95%となっている。
- ② 社会科に対する興味関心については、授業評価アンケート「学習内容に興味・関心がある」に対し、「そう思う」「どちらかと思えばそう思う」が86%、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」が14%と、9割弱の生徒が社会科に対して、興味・関心をもっている一方で、1割の生徒の興味・関心が低い傾向にある。

(2) 定期テストの結果より

観点別正答率においては、知識に関する問題 74.0%、社会的技能に関する問題 55.0%、社会的思考に関する問題 64.8%と、知識に関する問題の正当率が高い一方で、社会的技能および思考に関する問題の正当率が低い傾向にある。

(3) 授業アンケートの結果より

定期テスト前の勉強時間に生徒間の差が大きく見られる。「テスト前など家庭での勉強を行っている」に対し、「そう思う」「どちらかと思えばそう思う」が79%、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」が21%と、8割の生徒が定期テスト前の家庭学習が習慣化している。

(4) 領域別テストの結果より

地理的分野に比べ、歴史的分野を不得意とする生徒の割合が高い。6月実施の領域別テストの結果より、地理的分野の平均達成率 61.28%に比べ、歴史的分野 48.2%と約 13 ポイントの差が見られる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) ICT教材を活用し、社会的事象について生徒の興味・関心を高める授業方法の工夫
- (2) 社会的事象に対し、自分の考えをもち、相手にその考えを伝える力を伸ばす
- (3) 社会的事象に関する資料から有用な情報を適切に選択し、読み取る力を伸ばす
- (4) 社会的事象の基礎的・基本的な知識の定着と、それらを整理する力を伸ばす

4 授業の改善策

- (1) ICT 機器を全授業において活用し、視覚的なアプローチから社会的事象への興味を高める。また、生徒の生活と身近な事象を取り上げることで関心を高めていく。
- (2) 共同学習、討論型学習、双方向型の学習を導入することによって、自分の考えをもち、相手にその考えを伝える力を身に付けさせる。
- (3) 資料を複数組み合わせることで課題を追究する形式の授業を実施し、有用な情報を適切に選択し、読み取る力を身に付けさせる。
- (4) 既習範囲の用語を含め、基礎的・基本的な知識を繰り返し確認する。単元ごとに確認テストを実施し、基本的な社会用語の定着を図る。

社会科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

落ち着いて授業に取り組んでいる。プリントへの記入などやるべき事はきちんとできている。しかし社会科に対しての興味関心をもてないでいる生徒もいる。教科書などの知識を答える内容では発言が多いが、自分の考えや判断を求めると、発言は減る傾向にある。

(2) 定期テストの結果より

- ① 観点別正答率においては、知識に関する問題 65%、資料活用の技能に関する問題 57%、思考・判断・表現に関する問題 45%と、知識に比べ、資料活用の技能および思考・判断・表現に関する力が十分でない。
- ② テスト範囲の復習を行うためにまとめの学習教材を渡しているが、それに対する学習時間が不足気味で、そのことがテスト結果に表れている。

(3) 東京都「生徒の学力向上を図るための調査」の結果より

東京都と平均達成率を比べると、教科の内容では、最も開きがあるのは知識・理解の面で 3.9 ポイント下回っている。読み解く力に関する内容の中では、3 観点のうち読み取る力が最も開きがあり、6.0 ポイント下回っている。

(4) 生徒による授業アンケートより

- ① 「学習内容に興味・関心があるか」の問いに対して、24%の生徒がどちらかと思えばそう思わない、そう思わない、と答えている。「授業内容をわかりやすく教えているか」の問いに対して、そう思うは 37%である（どちらかと思えばそう思うは 55%）。
- ② 生徒による学習評価「テスト前など家庭での勉強を行っている」に対して 63%が「そう思う、どちらかと思えばそう思う」であるが、「どちらかと思えばそう思わない」が 37%いることから、自らすすんで学習しているという自信をもてないでいる。

(5) 領域別テストの結果より

知識理解を問う問題に比べ、割合を問うなど資料の読み取りなどの正答率が低い傾向にある。また、理由を問うなどの思考・判断に関する問題も正答率が低い。資料活用の能力や思考力を向上させる必要がある。

3 教科における指導の重点事項

- (1) ICT教材を活用し、生徒の歴史的地理的事象に対する興味・関心を高める授業方法の工夫
- (2) 社会的事象に対し、自分の考えをもち、相手にその考えを伝える力を伸ばす
- (3) 社会的事象に関する資料から有用な情報を適切に選択し、読み取る力を伸ばす
- (4) 社会的事象の基礎的・基本的な知識の定着と、それらを整理する力を伸ばす

4 授業の改善策

- (1) ICT機器を活用して、視覚的なアプローチから社会的事象への興味・関心を高める。考える教材を提供して教科への関心を高める。
- (2) 定期テスト前に「学習のまとめ」「ドリル問題」を配布し学習内容の整理を行う。
- (3) 考える教材を提供し、文章にまとめられるようにする。ICT機器による問題の提示を工夫し、疑問をもてるもの、なにを考えるのかを指示できるものを提示する。
- (4) 小テスト等を行うことにより意欲をもって学習できるようにアドバイスを行う。

社会科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 全体的に集中して授業に取り組む様子が見られる。評価アンケートでも、95%以上の生徒が集中して取り組んでいると答えている。学習ノートを見てみると、昨年度から継続しているメモスペースが習慣化され、感想・まとめとともに【考えるノート】づくりができています。授業内で取り入れているアクティブラーニングでも、自分で作り上げたノートを活用し、主体的に取り組む姿が多く見られる。
- ② 一方で、表現することに苦手意識をもっている生徒も見られ、授業内で生徒に問いかけると、自信のない姿が目立つことも多く、評価アンケートの結果からも、25%の生徒が表現することに苦手意識をもっていることがわかった。知識の定着・考えを発表する機会をできるだけ多く、継続的に設定する必要がある。

(2) 定期テストの結果より

観点別正答率においては、知識に関する問題 65%、社会的技能に関する問題 55%、社会的思考に関する問題 51%と、知識に比べ、社会的技能および思考に関する力、身に付いていることが分かる。

(3) 授業アンケートの結果より

「学習内容に興味・関心があるか」の問いに対して、91%の生徒がそう思う、どちらかといえばそう思うと答えている。また「授業内容を分かりやすく教えているか」の問いに対しても、そう思う、どちらかといえばそう思うは95%である。一方で、「グラフや図などの資料を読み取ることができるか」という問いに対しては、32%の生徒がそう思わない、どちらかといえばそう思わないと答えていることから、資料を読み取る活動に苦手意識をもっている生徒が多いことがわかる。

(4) 領域別テストの結果より

知識理解を問う問題に比べ、資料の読み取り問題などの正答率が低い傾向にある。2～3つの資料からそれぞれ読み取れることを文章にしたり、用語を覚える際に、場所や、その国の時代背景などと結びつけたりして理解させる必要がある。ICT機器を活用し、常に授業内容に関連する場所を意識させていく必要がある。

3 教科における指導の重点事項

- (1) ICT教材を活用し、生徒の興味・関心を高める授業方法の工夫
- (2) 社会的事象に対し、自分の考えをもち、相手にその考えを伝える力を伸ばす
- (3) 社会的事象に関する資料から有用な情報を適切に選択し、読み取る力を伸ばす
- (4) 社会的事象の基礎的・基本的な知識の定着と、それらを整理する力を伸ばす

4 授業の改善策

- (1) ICT機器を全授業において活用し、視覚的なアプローチから興味を高める。また、生徒の生活と身近な事象を取り上げることで関心を高めていく。
- (2) 既習範囲の用語を含め、基礎的・基本的な知識を繰り返し確認する。単元ごとに確認テストを実施し、基本的な社会用語の定着を図る。
- (3) 共同学習、討論型学習、双方向型の学習を導入することによって、自分の考えをもち、相手にその考えを伝える力を身に付けさせる。
- (4) 毎授業のまとめを宿題とする他、家庭学習方法を明確に提示し、家庭における学習の習慣化を図る。

数学科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 全体的に落ち着いて授業を受けている。
- ② 提出物の期限を守れている生徒が非常に多い。
- ③ 積極的に発言を行う生徒と発言しない生徒の差が大きい。

(2) 定期テストの結果より

- ① 知識・理解と技能の達成率が5割以上の人は71%であった。
- ② 見方・考え方の達成率が5割以上の人は58%であった。他の観点より達成率が低い。

(3) 生徒による授業アンケートより

- ① 授業の内容を分かりやすく教えているという質問に対して、そう思う、ほぼそう思うと答えた生徒が86%以上いる。
- ② しかし、授業の学習内容に興味・関心があるという質問に対して、そう思わない、あまり思わないと答えた生徒が20%ほどいる。
- ③ 家庭での学習方法を理解していないと答えた生徒が21%ほどいる。

(4) 領域別テストの結果より

- ① 数学の4観点でA評価が全国平均を下回っている。
- ② また、4観点でB評価が全国平均を上回っている。
- ③ また、4観点でC評価が全国平均を下回っている。
- ④ 領域別の達成状況は、すべての項目が全国平均に近い達成率となっている。数の計算、平面図形、立体図形の領域では、わずかに全国平均より高い達成率となっている。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 数学的な技能、知識・理解の定着を図る
- (2) 数学的な見方や考え方について向上を図る
- (3) 宿題、課題レポートを使っての家庭学習の定着を図る
- (4) 学習意欲を高める授業の導入を行う
- (5) ベーシックドリルを利用し、基準量・比較遠・割合の定着を図る。

4 授業の改善策

- (1) 数学的な技能、知識・理解の定着を図るための工夫
定期テストや、授業での演習を通じて、間違えた部分のやり直しや、ケアレスミスの直しを徹底する。
- (2) 数学的な見方や考え方について向上を図るための工夫
生徒が視覚的に理解できるようにICT等を用いた指導を工夫する。
- (3) 宿題、課題レポートを使っての家庭学習の定着を図るための工夫
定期的に課題を出すことによって、生徒が計画的に家庭で学習できるようにする。
- (4) 学習意欲を高める授業の導入を行うための工夫
新しい単元に入るときは、身近な事象などを提示することにより、生徒の興味・関心を引くように授業を行う。
- (5) ベーシックテストやドリルを利用して、小学校の内容を定着させる。

数学科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ①数学が不得意な生徒が多く、苦手意識があるが、意欲的に取り組もうとしている。
- ②基礎計算力が低い傾向にある。

(2) 定期テストの結果より

- ①技能の達成率が 62.6%であるのに対し、見方・考え方の達成率が 49.4%である。
- ②技能の達成率が 5 割を越えている生徒は 70.8%であり、見方・考え方の達成率が 1 割を下回る生徒が 13.7%いる。

(3) 東京都「生徒の学力向上を図るための調査」の結果によると、A層とB層がそれぞれ 17.6%であるのに対し、C層が 31.9%、D層が 32.8%であり平均を大きく下回っている。

(4) 生徒による授業アンケートによると、「私は家庭学習によく取り組んでいる」では、あまり思わないが 31%、思わない 10%という結果になり、約 4 割近くの生徒が家庭学習に消極的であるといえる。

(5) 領域別テストの結果によると、学校平均達成率が全国平均達成率にすべての項目で下まわっている。領域別の平均達成率を比較すると、グラフと統計の分野で特に達成率の差が顕著だった。見方・考え方の観点が定着していないと思われる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 基礎・基本的な学習内容の定着を図る。
- (2) 見方・考え方の能力を培う。
- (3) ベーシックドリルを利用し、基準量・比較遼・割合の定着を図る。

4 授業の改善策

- (1) 習熟度少人数 2 クラス 3 展開にしているので、指導人数が昨年の第 1 学年次より少ない。したがって、1 学期に引き続き個々を見る指導を続けていき、生徒に合わせた指導を行っていく。
- (2) 基礎・基本的な内容の定着を目指した授業を行っていく。したがって、教材研究を行い、扱う題材を取り組みやすいものに変えていく。
- (3) 算数の内容が理解できていない生徒もいるため、振り返り学習を行いながら授業を進めていく。
- (4) 家庭学習が上手くいっていないので、宿題を出すことやテスト前におさえるべき内容を指導することで、家庭学習の方法を理解させ、家庭学習を定着させる。
- (5) ICT 機器を活用し生徒の基礎基本的な内容の定着を補助、また学ボードを活用し、生徒が主体的に活動、考えを発信する力を養うことを補助する。
- (6) ベーシックテストやドリルを利用して、小学校の内容を定着させる。

数学科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

- (1) 授業の様子より
 - ① 全体的に集中して、落ち着いて授業を受けている。
 - ② 提出物の期限を守る意識はあるが、見直しをする習慣がついていない。
 - ③ 基礎計算への意欲は高いが、思考・判断を要する課題に対して消極的である。
 - ④ 小学校の内容（主に分数）に対する計算処理能力が不十分な面が見られる。
- (2) 定期テストの結果より
 - ① 技能の達成率は72%であった。
 - ② 見方・考え方の達成率は36%であった。
- (3) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」の結果より
 - ① 主として知識に関する結果が、全国平均より-5.6ポイントであった。
 - ② 主として活用に関する結果が、全国平均より-3.1ポイントであった。
- (4) 生徒による授業アンケートより
 - ① 授業の内容を分かりやすく教えていると感じている生徒が94%以上いる。
 - ② 習熟度別の授業は自分に合っていると感じている生徒が85%以上いる。
 - ③ 家庭での学習に良く取り組んでいないと答えた生徒が32%以上いる。
- (5) 領域別テストの結果より
 - ① 方程式、数と式の分野では全体平均に近い点数となっている。
 - ② 関数分野の平均がどの項目も全体平均より大きく下回っている。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 数学的な技能、知識・理解の定着を図る
- (2) 数学的な見方や考え方について向上を図る
- (3) 宿題、課題レポートを使っての家庭学習の定着を図る
- (4) 学習意欲を高める授業の導入を行う
- (5) ベーシックドリルを利用し、基準量・比較遠・割合の定着を図る。

4 授業の改善策

- (1) 数学的な技能、知識・理解の定着を図るための工夫
定期テストや、授業での演習を通じて、間違えた部分のやり直しや、ケアレスミスの直しを徹底する。
- (2) 数学的な見方や考え方について向上を図るための工夫
生徒が考察する授業を目指し、グループワークを多く取り入れ、考えを言語化させていく。
- (3) 宿題、課題レポートを使っての家庭学習の定着を図るための工夫
定期的に課題を出すことによって、生徒が計画的に家庭で学習できるようにする。
- (4) 学習意欲を高める授業の導入を行うための工夫
新しい単元に入るときは、既習事項とのつながりから入り、生徒の苦手意識を少なくしていく。
- (5) ベーシックテストやドリルを利用して、小学校の内容を定着させる。

理科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ①発言が非常に活発で活気があり、質問に対して考えようとする姿勢がうかがえる。
- ②ノートや課題に新しく学んだ知識をメモする生徒も多い。
- ③文字を書く作業を苦手とする生徒も各クラス数名見られる。

(2) 定期テストⅠの結果より

- ①自然事象についての知識・理解に関する設問の正答率が77%と最も高かった。
- ②科学的な思考・表現に関する設問の正答率が67%と最も低かった。

(3) 領域別テストの結果より

①観点別評価の分布について

- ・「自然事象への関心・意欲・態度」の項目について、C評価は0%であった。
- ・「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」の3項目について、A評価は全国平均の5～6ポイント下回り、B評価は全国平均を5～7ポイント上回っている。
- ・「観察・実験の技能」について、A・B評価ともにほぼ全国平均と同等であった。

②解答の傾向について

全国の傾向と同様に、物理分野・化学分野の順に正解率が低くなっている。

(4) 生徒による授業アンケートより

- ①授業での学習内容に興味や関心があると答えた生徒は85%、また、集中して授業に取り組んでいると答えた生徒は93%という結果であった。
- ②家庭学習に良く取り組んでいると答えた生徒は約40%にとどまっている。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 科学的な思考・表現力を高める。
- (2) 家庭において自主的に学習に取り組む習慣を身につけさせる。

4 授業の改善策

- (1) 実験の手順や操作方法、実験データや観察結果等の提示、演示の部分でICTを積極的に活用する。
- (2) 科学的な思考力・表現力を高めるための基礎となる理科学用語、科学的な概念に関する課題を作成し、反復学習する習慣を身につけさせ、小テストを実施して学習の成果を高めていく。

理科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 始業時の着席もよくできており、生徒は授業に落ち着いて取組んでいる。
- ② 宿題やレポートなどの提出物は期限を守って提出する習慣が身に付いてきている。
- ③ 意欲的に発言する生徒が多く、話し合いのグループ活動なども活発に行う。

(2) 定期テストの結果より

- ① 定期テストでは、知識・理解に関わる設問の正答率が **61.6%**と最も高かった。
- ② 技能、思考に関わる設問の平均正答率は約 **40%**で最も低かった。特に化学反応式の学習内容にかかわる設問の正答率が低かった。

(3) 東京都「生徒の学力向上を図るための調査」の結果より

- ① 技能の観点については、都平均を **5.6** ポイント上回った。
- ② 知識・理解の観点については都平均を **11.2** ポイント下回った。

(4) 生徒による授業アンケートより

- ① 授業内容への興味関心があるという生徒は約 **65.2%**と昨年度より約 **10** ポイント上がった。
- ② 実験の目的を理解していると回答した生徒は **68%**だが、実験結果をまとめる・考察できるという生徒が **50%**程度にとどまっている。
- ③ 家庭学習の習慣のある生徒が **33.3%**となっており、昨年度と比較して **2.3%**上がったが、家庭学習の方法を理解できているとした生徒が **48%**に留まっている。

(5) 領域別テストの結果より

- ① 知識・理解に関する問題が観点別の中では最も正答率が低かった。特に「示準化石」「フックの法則」「有機物」など理科用語に関連する正答率が低かった。
- ② 実験の技能の問題が観点別の中では最も正答率が高かった。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 授業内容への興味・関心を高めさせる。
- (2) 観察・実験の結果をまとめ考察を記述する等、思考力・判断力・表現力等の向上を図る。
- (3) 家庭学習を習慣付けさせる。

4 授業の改善策

- (1) ICTを活用し、授業の本時のまとめを充実させ、特に重要な用語は繰り返し復習をし、学習内容の定着を図る。
- (2) 理科用語の意味や科学的概念の理解を深めるため、単元終了時に知識に関する課題を作成し、その後復習の小テストを行う。

理科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 進路選択に向けた意識の高まりにつれて、学習意欲の向上が授業や課題の実施状況に表れている。
- ② 実験や観察等に対する意欲はあるが、観察・実験の考察等、思考や表現を苦手とする生徒が多い。

(2) 定期テストの結果より

- ① 定期テスト I の平均点が 54.8 点であり、1 年前から約 9 点の向上がみられた。
- ② 知識・理解の観点のみ 26/54 点と正答率で 50% を下回った。
- ③ 生徒個々による分野の得手不得手が明確に得点に表れた生徒が多かった。

(3) 生徒による授業アンケートより

- ① 学習への意識が高まったことが昨年度の結果との比較から読み取れた。特に、提出物の期限を守る、家庭学習を行っているという設問に対しては、肯定的な回答が昨年比 20% 前後の伸びとなった。
- ② 観察や実験に関連する項目のみ、昨年度と比較して肯定的な回答の割合が下がり、思考や表現を苦手とする生徒が多いことが裏付けられる形となった。

(4) 領域別テストの結果より

- ① 数値を扱う問題、実験手順に関する問題の正答率が平均を 10 ポイント以上下回った。
- ② 化学反応式や金属・非金属の性質等、正答率が平均を 5 ポイント以上上回る問題もあった。
- ③ 男女の平均点に大きな差はみられないが、平均点を下回る生徒が 68% と昨年に引き続き多かった。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 既習事項の復習を行い、知識の再定着を図る。
- (2) 観察・実験の結果をまとめ考察を記述する等、思考力・判断力・表現力等の向上を図る。
- (3) 家庭学習を習慣付けさせる。

4 授業の改善策

- (1) 第3学年となり、入試を意識した形での問題演習や単元を横断した問題に取り組ませるなどの方法により、重点事項（1）で挙げた既習事項の定着を図る。また、放課後を利用した学習教室では、さらに、小テストについても、用語を答えることを中心とした小テストや、入試問題の改題等の実践形式での小テストなど、出題形式を工夫することで、生徒自らが学習したことが得点につながったという達成感が得られる方法を取り入れていく。
- (2) 重点事項（2）の思考力・判断力・表現力等の向上のために ICT 機器を活用し、タブレットに班ごとの結果を入力した上で発表をさせたり、表やグラフを半自動的に作成することで思考の時間を確保させるなどの方法を取り入れる。
- (3) 家庭学習の習慣を付けさせるため、小テストの得点だけを評価するのではなく、家庭学習を行った記録となる学習ノート等についてもこまめに提出させ、評価を行う。また、家庭学習の必要性について今後も授業の中で伝えていく。

音楽科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

充実していた小学校の音楽の授業から、授業に抵抗がなく、歌唱分野に積極的に取り組む生徒が多い。また、素直で楽曲を豊かに感受する力のある生徒が多い。入学式から始まる中学校の諸行事で上級生の合唱を聞く中で、音楽に対する意識が高くなってきている。しかし楽典分野である音楽の基礎、基本の知識は浅い。

(2) 定期テストの結果より

定期テストの前に小テストをやっているため、解答の仕方に抵抗はみられない。しかし、テストのための十分な家庭学習をしている生徒は少ない。そのため、初歩的なところでミスをする結果となっている。また音楽の基礎、基本の定着率は低く、楽曲に対応する諸記号など理解は弱い。学期に一度行う歌唱の実技テストは、高得点な生徒が多いだけに実技と筆記のバランスが求められる。

(3) 生徒による授業アンケートの結果より

約8割の生徒が興味関心を授業にもっている。授業に取り組む姿勢は積極的なだけに、日頃からの楽譜の理解力、定期テスト前の十分な家庭学習がのぞまれる。また、豊かに感受する力はあるので、言葉、文章で表現できる語彙力をつけたい。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 楽譜の理解に重点を置く。
- (2) 主体的に活動する力を付ける。

4 具体的な授業改善策

- (1) 旋律の流れ、音符、速度、強弱などの諸記号、音楽用語を理解できるよう繰り返し取り組ませる。
- (2) 人前で堂々と表現できるよう発言、発表の機会を多く設ける。

音楽科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

中学校の諸行事での合唱の位置付けから、音楽に対する意識が高くなってきている。合唱では6クラスともみんなで一つの作品を創り上げていこうという意識があり、豊かな混声3部合唱の響きを見いだせているクラスもある。

(2) 定期テストの結果より

予想問題プリントを配布しているに関わらず、テスト前の家庭学習が不十分で、簡易な問いの正答率が低い。音楽の基礎、基本の理解に差がみられた。

(3) 生徒による授業アンケートの結果より

授業に興味関心のある生徒は約7割、楽譜の理解度は約6割。しかし、授業の進度には約8割以上の生徒がついてきている。1年次の時と比較すると1割ずつ増している。生徒の授業に対する姿勢から、更に興味関心が増していくことが期待できる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 読譜力をつける。
- (2) 鑑賞の時間から、楽曲の背景を理解し共感的感情を養う。

4 具体的な授業改善策

- (1) 楽譜にある音符、休符、速度や強弱記号などの定着を図るため小テストを定期的に行う。
- (2) ICT タブレット機器から動画などを有効活用する。

音楽科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

始業のあいさつの声の大きさが授業の意欲につながっている。ほとんどの生徒が楽曲に対して真摯に向き合い、純粋に音楽に取り組める生徒が多い反面、集中力がなく、周囲の生徒に悪影響を及ぼしてしまう生徒も少なからずいる。合唱活動でも同じことが言えるので、お互いの言語活動を通じて、関わり方を指導していきたい。記述力が徐々についてきているので、作曲者の意図する思いまで考えを深められると良い。

(2) 定期テストの結果より

定期テストに向けて家庭学習をしている生徒はアンケートから約6割の生徒である。3年間通じて音符、記号など基本的なことは毎回必ず出題される。授業では理解できるが、反復練習不足のため定着しない。授業中確実に定着できる集中力を身に付けさせたい。

(3) 生徒による授業アンケートの結果より

学年が上がるごとに興味関心は高くなり約8割の生徒が授業に対して意欲的に参加している。楽譜を理解できている生徒は6割。プラスの行動を意識して取っている生徒は約6割という結果である。読譜力と、生徒同士のコミュニケーション能力の向上、主体的に目標を明確にとりくませていきたい。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 楽譜を理解する。
- (2) 言語活動の充実から豊かな人間関係を築き、合唱活動につなげる。
- (3) 主体的に生徒同士で課題解決の力をつける。

4 具体的な授業改善策

- (1) 音符や諸記号が理解出来るよう、繰り返し取り組みテストで確認をする。
- (2) ペア、グループ活動を取り入れる。
- (3) リーダー中心に、また、個人の練習時間を設ける。

美術科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 学校全体、学年全体による生活指導などの結果、授業態度などは良好で、ほぼ全ての生徒が落ち着いた環境で学習に取り組んでいる。
- ② 授業に対して興味関心を持って取り組む生徒が多く、全体として創造的な技能や発想構想の能力を向上させたいという雰囲気を感じる。後述する授業評価アンケートでも、授業の学習内容に興味・関心があると答えた生徒が84%であった。

(2) 定期テストの結果より

例年、評価材料を増やし、教科として生徒が身に着けるべき能力の定着を確実に図る観点から、一学期は定期テストを実技テストとしている。今年度は昨年度よりも事前にテストのねらいを丁寧に説明し、授業内と家庭で練習する時間を十分確保した結果、初めての実技テストに戸惑う生徒が少なくなり、多くの生徒が意欲的に取り組んだ結果、学年平均得点が6.8点（10点満点）と昨年度よりも10ポイント程度上昇した。

(3) 生徒による授業アンケートの結果より

- ① 全体として授業に対して意欲的、肯定的な意見が半数以上であった。「私は授業に集中して取り組んでいる」と答えた生徒は全体の89%となっている。
- ② 「私は課題を取り組みやすいと思う」という質問に対して「あまり思わない」、「思わない」と答えた生徒が全体の77%いたので、小学校から中学校への学習内容の変化に戸惑っている生徒も少なからずいる結果となっている。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 知識及び技能の更なる定着を図るための教材等の改善。
- (2) 美術に対して興味関心と意欲を高めるための鑑賞の題材の充実。

4 具体的な授業改善策

- (1) 生徒の様子の部分でも述べたように、ほぼ全ての生徒が落ち着いて学習に取り組むことができるようになったので、知識及び技能の更なる定着を図るために、授業内で使用するワークシートや板書の代わりに黒板に掲示する資料、導入に使用するプレゼンテーションなどを見直し、より効果的なものに作り替えていく。
- (2) 授業アンケートの結果、美術という教科に対してまだ敷居の高さを感じている生徒も少なからずいるので、今年度は定期的に作品鑑賞と生徒同士の意見交換の時間を設け、目の前の課題だけではなく、美術文化そのものについて親しみや親近感をもたせ、次の題材へとつなげる。

美術科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 学校全体、学年全体による生活指導などの結果、授業態度などはおおむね良好で、ほぼ全ての生徒が落ち着いた環境で学習に取り組んでいる。授業評価アンケートでも88%の生徒が集中して取り組んでいると答えている。
- ② 昨年度に引き続き、授業に対して興味関心を持って取り組む生徒が多く、全体として創造的な技能や発想構想の能力を向上させたいという雰囲気を感じる。後述する授業評価アンケートでも、授業の学習内容に興味・関心があると答えた生徒が80%であった。

(2) 定期テストの結果より

例年、評価材料を増やし、教科として生徒が身に付けるべき能力の定着を確実に図る観点から、一学期は定期テストを実技テストとしている。例年通りテストで考えたアイデアを次の題材作品として制作するなど、普段の授業との関連を重視しているので、生徒にもテストの趣旨が定着した結果、学年平均得点は64点（100点満点）と昨年度の58点（100点満点）よりも上昇した。

(3) 生徒による授業アンケートの結果より

- ① 全体として授業に対して意欲的、肯定的な意見が半数以上であった。「私は授業に集中して取り組んでいる」と答えた生徒は全体の88%となっている。
- ② 「私は課題を取り組みやすいと思う」という質問に対して「あまり思わない」、「思わない」と答えた生徒が全体の75%いたので、知識及び技能の更なる定着を図るための教材等の工夫と美術に対して興味関心を高める手だてが必要である。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 知識及び技能の更なる定着を図るための教材等の改善。
- (2) 美術に対して興味関心を高めるため、鑑賞の題材の充実。

4 具体的な授業改善策

- (1) 生徒の様子の部分でも述べたように、ほぼ全ての生徒が落ち着いて学習に取り組むことができるようになったので、知識及び技能の更なる定着を図るために、授業内で使用するワークシートや板書の代わりに黒板に掲示する資料、導入に使用するプレゼンテーションなどを見直し、より効果的なものに作り替えていく。
- (2) 「私は課題を取り組みやすいと思う」という質問に対して「あまり思わない」、「思わない」と答えた生徒も美術に対して興味関心を高めるため、毎回の授業で作品を鑑賞させるなど、鑑賞の活動や題材を充実させ、目の前の課題だけではなく、美術文化そのものについて親しみや親近感をもたせ、時間をかけて確実に生徒の美術への興味関心を高める。

美術科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 学校全体、学年全体による生活指導などの結果、授業態度などは良好で、ほぼ全ての生徒が落ち着いた環境で学習に取り組んでいる。授業評価アンケートでも92%以上の生徒が集中して取り組んでいると答えている。
- ② ほぼ全ての生徒が落ち着いた環境で学習に取り組んでいるものの、授業評価アンケートで授業の学習内容に興味・関心があると答えた生徒が75%で、まじめに授業に取り組むが、学習内容に興味をもてない生徒が2.5割程度いる。

(2) 定期テストの結果より

例年、評価材料を増やし、教科として生徒が身に付けるべき能力の定着を確実に図る観点から、一学期は定期テストを実技テストとしている。今年度はテストで考えたアイデアを次の題材作品として制作するなど、普段の授業との関連を重視した結果、生徒も見通しをもって意欲的に事前学習に取り組み、学年平均得点は63.2点（100点満点）と昨年度の59.5点（100点満点）よりも上昇した。

(3) 生徒による授業アンケートの結果より

- ① 全体として授業に対して意欲的、肯定的な意見が半数以上であった。「私は授業に集中して取り組んでいる」と答えた生徒は全体の92%となっている。
- ② 「私は課題を取り組みやすいと思う」という質問に対して「あまり思わない」、「思わない」と答えた生徒が全体の72%いたので、知識及び技能の更なる定着を図るための教材等の工夫と美術に対して興味関心を高める手だてが必要である。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 知識及び技能の更なる定着を図るための教材等の改善。
- (2) 美術に対して興味関心を高めるため、鑑賞の題材の充実。

4 具体的な授業改善策

- (1) 生徒の様子の部分でも述べたように、ほぼ全ての生徒が落ち着いて学習に取り組むことができるようになったので、授業内で使用するワークシートや板書の代わりに黒板に掲示する資料、導入に使用するプレゼンテーションなどを見直し、より効果的なものに作り替えていく。
- (2) 「私は課題を取り組みやすいと思う」という質問に対して「あまり思わない」、「思わない」と答えた生徒も美術に対して興味関心を高めるため、毎回の授業で作品を鑑賞させるなど、鑑賞の活動や題材を充実させる。授業で取り組む題材に留まらず、中学校卒業後も日々の生活を豊かなものにするために、美術文化に親しみや親近感を持ち続けることができるようにする。

保健体育科 授業改善推進プラン 第1学年（男子）

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

- (1) 授業の様子より
 - ① 体育委員を中心として、授業規律を守り取り組むことができている。
 - ② 運動能力や体力に差があり、技能取得が困難な生徒がいる。
- (2) 定期テストの結果より
 - ① 各単元のルールや、技能の名称等の知識は定期考査の結果より、理解が深められていることがわかる。
 - ② 知識を活用して答える問題では正答率が低く、今後の課題としたい。
- (3) 生徒による授業アンケートより
 - ① 体育の授業内容に興味がある生徒が90%をしめていることから、意欲的な生徒が多いことがわかる。
 - ② 学習カードに自分の考えをまとめ、次の授業に生かすことができない生徒が約30%いた。授業内で記入する時間を与え、今後の見通しをもたせる場面を作っていく。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 基礎体力の向上
- (2) 課題解決能力を身に付させる
- (3) 自発的な教え合い高め合いの促進
- (4) 生涯スポーツへの考え方や健康寿命に対する意識の向上

4 授業の改善策

- (1) 基礎体力の向上は運動能力の差に関係なく実施できるものにし、単元に合わせた補強運動を授業の導入で実施し、筋力、持久力、柔軟性等の向上にむけて継続的に行う。
- (2) 各授業の中で、集団で話し合う場面を多く設け、自分の課題把握、解決に向けてどのようなことができるか考えさせる。その際、ICT 機器（タブレット）を活用し、自らの動きや仲間の動きについて考察できるようにする。
- (3) グループ活動の中で学び合う環境を作り、仲間の動作や集団の動きを観察させ、積極的に仲間を応援、助言をさせたい。そのためにも、タブレットの活用や学習カードにアドバイスされたことを記入できる欄を設け、教え合いが活発にできるようにする。
- (4) 保健分野の授業において、養護教諭と連携を図り授業を展開していく。生徒の成長に伴って生じる体や心の変化、健康の保持増進などの問題について知識や技能に裏付けられた指導を行うことも必要である。
また、薬物乱用防止教室、AED 実技講習などを実践し、生涯にわたって運動に親しむ知識や技能を習得できるようにする。

保健体育科 授業改善推進プラン 第1学年（女子）

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ①体育委員を中心に、不慣れな授業にあっても前向きに取り組むことができている。
- ②時間を守ること、忘れ物をしないことなど、学習環境を整える姿勢を定着させていく必要がある。

(2) 定期テストの結果より

- ①知識を習得することを前提として、知識を活用した体育的な思考を高めていく必要がある。
- ②問題文を正しく読み取り、解答する力をこれからの課題としていく。

(3) 生徒による授業アンケートより

- ①授業への興味・関心や規律正しく安全な活動を行う意識は高いという結果になった。
授業への関心・意欲：肯定的な回答81%
決まりを守る・安全に配慮する：肯定的な回答100%
- ②学習教材の活用方法や、積極的な教え合い活動はまだまだ十分ではないということがわかる。
学習カードに自分の考えをまとめ、次時の授業に生かす：肯定的な回答75%
ペア学習・グループ学習の中で積極的な教え合いを行う：肯定的な回答78%

3 教科における指導の重点事項

- (1) 基礎体力の向上
- (2) 課題解決能力を身に付させる
- (3) 自発的な教え合い高め合いの促進
- (4) 生涯スポーツへの考え方や健康寿命に対する意識の向上

4 授業の改善策

- (1) 各単元（種目）によって高まりが期待される体力を重点的に補強運動として毎時間導入で実施する。
また、発達段階に応じ、強度を変化させるなどの工夫をしていく。
- (2) 学習カードを活用し、授業の振り返りを行う。自分と他者の実技を比較し、視覚的にアプローチできるICT機器を有効に活用する。
- (3) 小集団での学習を通して、互いの良さを認め合える授業を積極的に取り入れていく。
- (4) スポーツに携わる機会にどのような方法があるのか、自国開催のオリンピック・パラリンピック教育とタイアップし、運動への興味関心を高めさせていく。
また、健康の保持増進と運動の相互関係について理解させ、体を動かすことで得られる喜びや人との繋がりを体感させていく。

保健体育科 授業改善推進プラン 第2学年男子

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ①全体的に明るく素直で落ち着いて学習に取り組める生徒が多い。
- ②話しを聞く姿勢や安全面に対する配慮に欠ける生徒も一部いる。

(2) 定期テストの結果より

- ①単純な暗記問題や、記号選択問題は回答率が高く、正答率も概ね高い。
- ②説明問題など、文章を構成しなければ解答できない問いについては、言葉足らずや説明不足などで十分な解答に至らない生徒が多い。また、空欄で解答できない生徒も一部いる。

(3) 生徒による授業アンケートより

<アンケートの結果>

「体育の授業に興味・関心がある」の問いに対して、「そう思う」や「ほぼそう思う」の生徒は79%を占めている。特に、「授業のきまりを守っている」の問いに対して、「そう思う」や「ほぼそう思う」の生徒は93%と高い。しかし、「学習カードに自分の考えをまとめ、次の授業に生かそうとしている」の問いに対して、「そう思う」や「ほぼそう思う」の生徒は、69%であり、課題がみられた。

(4) 新体力テストの取り組みについて

昨年度（第一学年時）の課題より、「投力」に課題がみられた。実施前に、投球練習と重心移動を伴った投げ方を示し、練習を入念に行った。また、欠席生徒や休みがちな生徒も全種目取り組めるよう、複数回追試日を設け、授業以外でも取り組めるようにした。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 基礎体力の向上
- (2) 課題解決能力を身に付させる
- (3) 自発的な教え合い高め合いの促進
- (4) 生涯スポーツへの考え方や健康寿命に対する意識の向上

4 授業の改善策

(1) 重点事項（1）に対して

ラジオ体操だけでなく、補強運動、ランニングを毎時間継続して取り組み、基礎体力の向上を目指す。また、夏季の水泳、冬期の持久走などでより持久力をつけさせるとともに、球技などで集団としての基礎的な技能を向上させる。

(2) 重点事項（2）に対して

集団での話し合いや、コミュニケーション活動を取り入れた運動メニューを複数考案し、実施後に視覚的に分かりやすく振り返ることができるように、ホワイトボードやICT機器を活用する。また、課題発見・克服するための方法等自ら考えられるような学習カードの工夫・改善を行う。

(3) 重点事項（3）に対して

グループ活動や少人数学習を通じて、言語活動によるワークを意図的に増やすことで、教え合い・学び合いの機会を設定する。

(4) 重点事項（4）に対して

必要に応じて養護教諭との連携を図り、保健分野の授業を計画的に進行することで自らの健康に関する意識を向上させる。また、セーフティー教室(薬物乱用防止教室)や救急救命講習会などの実技講習会の実施により、生涯にわたって健康に生活するための知識の習得を図る。

保健体育科 授業改善推進プラン 第2学年（女子）

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

- (1) 授業の様子より
 - ①体育委員を中心に、授業規律を守り、意欲的に学習に取り組んでいる。
 - ②グループ学習では、積極的に意見を出し合う姿が見られる。
- (2) 定期テストの結果より
 - ①文章を正しく読み解く力が弱く、答えを導き出せない様子が伺え、今後の課題である。
 - ②文章で答える問題については、語彙力や表現力の差が見られる。
- (3) 生徒による授業アンケートより
 - ①授業に対する興味関心の高く、安全に対する意識の高い生徒が多いという結果となり、授業の様子からもうかがえる。
 - ②学習カードの活用について、昨年よりもポイントが上がった。
- (4) 体力テストの結果より
「50m 走」「ハンドボール投げ」が弱い傾向にあるため、体全体をうまく使えていない生徒が多いことがわかる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 基礎体力の向上
- (2) 課題解決能力を身に付させる
- (3) 自発的な教え合い高め合いの促進
- (4) 生涯スポーツへの考え方や健康寿命に対する意識の向上

4 授業の改善策

- (1) 単元の特性を生かした補強運動を取り入れ、「動くためのコツ」や「動ける体づくり」を意識させ、体力の向上を図る。
- (2) ICT 機器を活用し、良い動きに近づけるための課題を自ら見つけ、改善に向けて実践できるようにする。また、学習カードを活用し、「動きの変化」「気持ちの変化」に気づき、振り返りができるようにする。
- (3) スモールティチャーを活用し、意図的に教え合う環境を設定する。また、アドバイスに耳を傾けるために、学習カードなどを活用していく。
- (4) 生涯にわたり、自分とスポーツの関わりについて、オリンピック・パラリンピックと関連させ、考える力を育む。また、養護教諭との連携を図り、保健分野を計画的に進めると共に、薬物乱用防止教室やAED実技講習会などを実施し、生涯にわたり健康に生活するための知識の習得を図る。

保健体育科 授業改善推進プラン 第3学年（男子）

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

- (1) 授業の様子より
 - ① 安全に留意し、規律正しい学習を行うことができている。
 - ② 日常生活における運動習慣の差が目立つことで、単元によるが能力差のひらきがみられる。
- (2) 定期テストの結果より
 - ① 授業を前向きに取り組むことができているため、今学期のテストの平均は過去最高となった。
平均点 34.4 点（50 点満点）
 - ② 問題を正しく読み解く力、出題の意図をくみ取り、適切に解答をする力が今後の課題である。
- (3) 生徒による授業アンケートより
 - ① アンケートの結果から、授業への興味・関心やきまりを守って安全な授業の実践に取り組んでいる生徒が多いことがわかる。
 - ・授業への興味・関心：肯定的な回答 89%
 - ・きまりを守る、安全への配慮：肯定的な回答 100%
 - ② ペア学習、グループ学習、スモールティーチャーの配置を継続的に実践した成果が表れた項目として。
 - ・学習カードの自分の考えをまとめ、次の授業に生かそうとする：肯定的な回答 86%
 - ・ペア学習、グループ学習で積極的な教え合いをしている：81%
- (4) 体力テストの結果より
 - ① 昨年度の結果から、握力・上体起こし・50m走は全都、全国平均と同等、もしくは上回る結果となった。
 - ② 上記の種目以外は平均値を下回る種目もある。
 - ③ このことから、筋力がパフォーマンスに影響を与える種目に関しては成果が上がっている一方で、柔軟性や、敏しょう性といった体力の向上には中長期的な課題としてとらえる必要がある。

※第三学年男子生徒37名による回答

3 教科における指導の重点事項

- (1) 基礎体力の向上
- (2) 課題解決能力を身に付させる
- (3) 自発的な教え合い高め合いの促進
- (4) 生涯スポーツへの考え方や健康寿命に対する意識の向上

4 授業の改善策

- (1) 各単元に応じ、導入で扱う補強運動を工夫していく。
- (2) 学習カードやICT機器を効果的に活用し、自己の成果と課題を振り返る時間を設ける。
- (3) 運動のできばえを正しく評価できる知識や思考の定着を図り、グループ活動やペア学習を積極的に取り入れていく。
- (4) 比較的高度が低く、誰でも簡単に実践できるような運動（ストレッチなども含む）を継続的に実践していく。また、全学年でラジオ体操に力を入れて運動に携わる喜びや重要性を説く。養護教諭と連携し、がん教育を進めていく。

保健体育科 授業改善推進プラン 第3学年（女子）

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

- (1) 授業の様子より
 - ① 体育委員を中心に、授業規律を守り、落ち着いて学習に取り組んでいる。
 - ② 自己の能力を高めたいこうとする生徒が少なく、挑戦型の種目には消極的である。
- (2) 定期テストの結果より
 - ① 家庭学習を行う生徒(74%)と、そうでない生徒(26%)の差が顕著に見られるようになってきた。
 - ② 思考を問う問題に対して、正しく答えられる生徒が多くなってきた。
- (3) 生徒による授業アンケートより
 - ① 授業に対する興味関心の高い生徒が 74%、授業規律を守るなど、安全に対する意識の高い生徒 100% という結果となり、授業の様子からもうかがえる。
 - ② 積極的に教え合いを行っているという生徒が、昨年度より 5%増え、少しずつではあるが、定着が図られてきたことが伺える。
- (4) 体力テストの結果より
「50m 走」「立ち幅跳び」「ハンドボール投げ」が弱い傾向にあるため、体全体をうまく使えていない生徒が多いことがわかる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 基礎体力の向上
- (2) 課題解決能力を身に付させる
- (3) 自発的な教え合い高め合いの促進
- (4) 生涯スポーツへの考え方や健康寿命に対する意識の向上

4 授業の改善策

- (1) 単元の特性を生かした補強運動を取り入れ、「動くためのコツ」や「動ける体づくり」を意識させ、体力の向上を図る。
- (2) ICT 機器を活用し、良い動きに近づけるための課題を自ら見つけ、改善に向けて実践できるようにする。また、学習カードを活用し、「動きの変化」「気持ちの変化」に気づき、振り返りができるようにする。
- (3) スモールティチャーを活用し、意図的に教え合う環境を設定する。
また、アドバイスに耳を傾けるために、学習カードなどを活用していく。
- (4) 生涯にわたり、自分とスポーツの関わりについて、オリンピック・パラリンピックと関連させ、考える力を育む。また、養護教諭との連携を図り、「健康の保持・増進」「心と体のつながり」「ガン教育」について理解・実践できるよう指導していく。

技術科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① キャビネット図や等角図を使用して図形をかく作業は、落ち着いて作業する生徒が多い。
- ② パソコンを使用した授業は、操作が難しいと感じている生徒が多い。
- ③ 課題を解決しようと作業に進んで取り組むことができた。

(2) 定期テスト・生徒による学習評価等の結果より

- ① 平均点は、50点満点の30点だった。基本的な事柄についての正答率が高かった。
- ② キャビネット図や等角図を正投影図に書き直す問題の正答率が高かった。

(3) 生徒による授業アンケートより

- ① 「授業に関心がある」という問では肯定的に回答している生徒が68.6%であった。
- ② 「授業に集中している」という問では、肯定的に回答している生徒が74.4%であった。
- ③ 「安全に作業に取り組んでいる」の間では、肯定的に回答している生徒が89.4%であった。
- ④ 「課題を取り組みやすいと思う」の間では、肯定的に回答している生徒が62.1%であった。今後の課題として、教材の選択が考えられる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 安全に作業するために、道具の使い方について指導する。
- (2) 学習プリントを使用し、理解を深める。

4 授業の改善策

- (1) パソコンの授業では、基本的な操作を何度もくり返す事で生徒の理解を深める。
- (2) キャビネット図や等角図を学習するための、立体物を用意し設計図から想像しやすいようにする。

技術科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① ものづくりの作業として、はんだごてを使用したがる、集中して作業する生徒が多かった。
- ② 部品の取り付け間違いが多く発生した。
- ③ 学習プリントを使用しながら協力して実習に取り組むことができた。

(2) 定期テストの結果より

- ① 平均点は、50点満点の18点だった。
- ② 名前を覚える問題の正解と電気回路の計算をする問題・抵抗器の抵抗値読み取り問題は、正解が少なかった。

(3) 生徒により授業アンケートより

- ① 「授業に関心がある」という問では肯定的に回答した生徒が73.3%であった。
- ② 「授業に集中している」という問では肯定的に回答した生徒が79.5%であった。
- ③ 「安全に作業に取り組んでいる」の間では肯定的に回答した生徒が88.6%であった。
- ④ 「課題を取り組みやすいと思う」の間では肯定的に回答した生徒が24.1%であった。今後の課題として、教材の選択が考えられる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 安全に作業する工夫として、道具の正しい使用方法を理解させる。正しい部品取付けをさせる。
- (2) 知識理解の工夫として、学習プリントを活用する。

4 授業の改善策

- (1) 授業の中ではんだごてを使用するため、安全に取り扱うための注意事項や、部品の取り付け間違いを防止するためにひとつの部品につき、全体にイラストを提示する。
- (2) 生徒が興味・関心をもって授業にのぞめるよう、実験をいれながら授業をすすめる。

技術科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 学習プリントや授業の中での説明に落ち着いて取り組んでいる。
- ② 作業の中で集中して取り組める。
- ③ 道具の名称等覚えることが苦手な生徒がいる。
- ④ キーホルダーを製作しているが、製作したい形を決めるのに個人差が出た。

(2) 定期テスト・生徒による学習評価等の結果より

- ① 平均点は、50点満点の21点だった。
- ② 基本的な事柄については、正解が多かった。

(3) 生徒により授業アンケートより

- ① 「授業に関心がある」という問では肯定的な回答をした生徒は81.5%であった。
- ② 「授業に集中している」との問では肯定的な回答をした生徒は87.7%であった。
- ③ 「安全に作業に取り組んでいる」の問では、肯定的な回答をした生徒は92.3%であった。
- ④ 「作業の手順が理解できている」の問では、肯定的な回答をした生徒は34.4%である。今後の課題として、作業手順について説明方法を工夫する。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 安全に作業するために、道具や機械の危険性を伝える。
- (2) 学習プリントを使用し、理解を深める。

4 授業の改善策

- (1) 生徒が道具の使い方を理解できるよう、生徒の前で道具の使用方法について実演を行う。
- (2) 学習プリントをしようしながら学習内容の理解を深めつつ、必要な部分には実験をいれながら授業を進める。

家庭科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 小学校では学校により違いがあるものの、衣食住について基本的な項目は学習しており、家庭科の授業は楽しみにしている様子が見られた。例年以上に意欲的である。
- ② 比較的集中力も有り、課題に熱心に取り組むことができる。

(2) 定期テストの結果より

- ① テスト前に家庭科の家庭学習をしているかの質問に対して、74.2%の生徒が「している」、と答えた。非常に学習意欲が高い。
- ② 日常生活に関連ある問題での正解率が高かった。

(3) 生徒による授業アンケートより

全ての項目において肯定的な回答が多かったが、期限内に「課題を終える」ことに関しては、困難を感じている生徒も多く、個人差が大きい。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 生活についての基本的知識を習得させる。
- (2) 生活に必要な基本的技術を習得させる。
- (3) 学習ノートを用いて、自分の考えを表現できるようにする。
- (4) グループ学習で意見交換や発表のしかたを学ばせる。

4 授業の改善策

- (1) 作業の手順や手立てなどをわかりやすく教える工夫をする。
- (2) 生徒の興味・関心をさらに引き立てるような身近な題材を工夫する。余裕のある教材を選ぶと共に、進度の早い生徒への課題も用意する。
- (3) 自分の意見や考えを書けるような学習ノートを作る。
- (4) グループで協力する態勢を作る。

家庭科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ①生徒は日頃から食の分野に興味・関心があり、実習に対しては大変意欲的に取り組む。
- ②食品にはそれぞれ違った栄養的特徴があり、いろいろの食品を摂取しなければいけないことの重要性理解しているが、知識として定着していない。

(2) 定期テストの結果より

- ①授業で学習した内容ではあるが、授業中の手応えと、テストの結果にギャップがある。
- ②日頃よく目にするはずの、食品についての知識があまりない。

(3) 生徒による授業アンケートより

授業の内容については興味・関心が高く、集中して取り組んでいる生徒が多い。授業の内容が分かりやすいと回答した生徒が91%いたが、テスト前の学習は57%しか行っていない。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 生活についての基本的知識を習得させる。
- (2) 生活に必要な基本的技術を習得させる。
- (3) 学習ノートを用いて、自分の考えを表現できるようにする。
- (4) グループ学習で意見交換や発表のしかたを学ばせる。

4 授業の改善策

- (1) 作業の手順や手立てなどをわかりやすく教える工夫をする。
- (2) 生徒の興味・関心をさらに引き立てるような身近な題材を工夫する。
- (3) 自分の意見や考えを書けるような学習ノートを作る。さらに詳細な内容の学習ノートにする。
- (4) グループで協力する態勢を作る。

家庭科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ①落ち着いて授業ができる。
- ②期限内に課題をやり終えようとする意識が高い。

(2) 定期テストの結果より

- ①52%の生徒がテスト前の学習を行っていない。
- ②基本的な問題に誤答が多かった。

(3) 生徒による授業アンケートより

授業に集中して取り組んでいるかという問いに対して、94%の生徒が取り組んでいると答えた。その通り、非常に取り組む姿勢がよい。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 生活についての基本的知識を習得させる。
- (2) 生活に必要な基本的技術を習得させる。
- (3) 学習ノートを用いて、自分の考えを表現できるようにする。
- (4) 知識・理解の定着を図る。

4 授業の改善策

- (1) 作業の手順や手立てなどをわかりやすく教える工夫をする。
- (2) 生徒の興味・関心をさらに引き立てるような身近な題材を工夫する。
- (3) 自分の意見や考えを書くことのできる学習ノートを工夫する。
- (4) 定期テストに向けて補習課題を作成する。

英語科 授業改善推進プラン 第1学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 英語を学ぼうとする意欲がある生徒が多く、授業には積極的な姿勢で臨んでいる。
- ② 授業は習熟度別クラス（発展1クラス、標準2クラス）で行われているが、標準クラスの生徒も授業の課題にしっかり取り組んでいる。

(2) 定期テストの結果より

- ① 「知識」の観点から、授業で学んだ表現を正しいつづりで書ける生徒が多い。（定期テストにおいて、8割の正答率を得た生徒が7割いる。）
- ② 「表現」の観点から、正しい文法を使って表現できる割合は6割程度にとどまっている。
- ③ 第一回定期テストを終えて、テストを意識した勉強をするようになった。しかし、家庭学習の習慣が身に付いていないため、学習した内容を定着することには課題がある。

(3) 生徒による授業アンケートより

- ① 「授業を通して英語の力が身に付いている。」と答えた生徒は92%いた。このことから、生徒は積極的に授業を受けようという意欲をもっていると言える。約80%の生徒が英語が好きだと答えている。
- ② 「授業を通して英語の力が身につけている」と答えた生徒は、90%いた。一方で、「授業の内容を家庭でも復習している」と答えた生徒は約50%であった。今後は適切な家庭学習の課題を設定していくことで、学力向上を図る。
- ③ 少人数授業については、86%の生徒がクラス全体の授業と比べて分かりやすいと感じている。このことで、授業に参加するモチベーションを保たせることができていると考えられる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 生徒が英語への興味関心を増すよう、ICT 機器の活用やゲームを行う。単元の目標に合わせて、効果的な学習活動を行う。
- (2) 言語活動を中心として、教科書の基本的な文の定着を図り、学習した表現を使えるようにする。
- (3) 家庭学習の習慣を身に付けさせ、授業以外での勉強時間を増やす。

4 授業の改善策

- (1) 授業中生徒に積極的に発話させ、週に一回程度の ALT との授業では、生徒と ALT が話す機会を十分に活用し、英語への関心をより高めていく。
- (2) 生徒が飽きないように音読の反復練習をさせ、習った表現を使って会話する機会を増やし、話すことへの抵抗を減らす。
- (3) 家庭学習の課題をより明確にし、日々の積み重ねができるようにしていく。

英語科 授業改善推進プラン 第2学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をやるのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 授業は習熟度別クラスで行われているが、どのクラスにおいても、積極的な姿勢で授業に臨む生徒が多い。
- ② 覚えることが苦手な生徒が多く、基礎的な学力の定着は十分とは言えない。

(2) 定期テストの結果より

- ① 「知識」の正答率は55%、「理解」の正答率は56%となり、基礎の定着にまだ課題がある。
- ② 「表現」の正答率は47%と、英語で文を書くことが苦手な生徒が多い。

(3) 生徒による授業アンケートより

全員が、授業を通して英語の力が身についていると「思う」か「少し思う」と答えている。また、全員が授業を「頑張った」「まあまあ頑張った」と回答し、「頑張りが足りなかった」「頑張らなかった」と答えた生徒はいなかった。しかし、家で復習を「あまりしていない」「全くしていない」という生徒が、発展クラスでも標準クラスでも、半数をしめる。

クラスごとに見ると、授業の内容を理解「している」「だいたいしている」と答えた生徒は、発展クラスでは9割以上いるのに対し、基礎クラスでは58%しかいなかった。発展クラスでは全員が英語の力が身についていると「思う」「少し思う」と回答したが、標準クラスの生徒では84%に止まった。このことから、標準クラス中には、授業が理解できず、学習した内容が定着していない生徒がいることがわかる。

(4) 領域別テストの結果より

リスニングの問題は正答率が8割を越えている。会話の問題の正答率も6割近くに達している。文法の問題では正答率が4割程度になっている。英文で答えを書く問題で5文を書けたのは65%、長文の内容理解では5割程度の正答率となっている。

英語の慣用表現はある程度理解しているが、基本的な文法や一定量の英文の理解をするために必要な単語が身に付いていない生徒が多いと考えられる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 文法と語彙の定着を目指した指導をする。
- (2) 英語で文を書くことに慣れさせる。
- (3) 日々の家庭学習の習慣を身につけさせる。

4 授業の改善策

- (1) 生徒が楽しく文法や語彙を学習できるような方法を考え、ICTを活用したりゲーム形式を用いたりして、生徒にわかりやすい授業を目指す。
- (2) 生徒に積極的に発話させ英語に慣れさせるとともに、ALTの授業の際には学習した内容を多分に使えるように、授業の工夫をする。
- (3) 宿題を課したり、目的意識をもたせたりすることを通して、復習する意欲を促し、家庭での学習時間が増えるように指導する。

英語科 授業改善推進プラン 第3学年

1 学校として目指す授業

- (1) 分かりやすい授業（目標が分かる・やり方が分かる・何をするのかが分かる）
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる授業

2 生徒の実態

(1) 授業の様子より

- ① 毎回出している宿題を、期限内に提出することが習慣づいた生徒が多い。
- ② 音読の声の大きさが小さくなったり、発言が減ったりと、これまでより消極的になってきている。

(2) 定期テストの結果より

- ① 知識の正答率は60%であり、基本的な文法や単語がよく身につけている。
- ② 表現の正答率は47%と、英作文を苦手としている生徒が多い。

(3) 生徒による授業アンケートより

発展クラスと基礎クラスに共通して、家で復習をしていないという生徒が多く、全体の40%をしめる。また、クラスごとに見ると、発展クラスでは、授業の内容がわからないと回答する生徒がいないのに対し、基礎クラスでは20%程度の生徒がわからないと回答している。また、発展クラスでは、英語の力が身に付いていると思うか、という問いに対して、全員がそう思うと回答したのに対し、基礎クラスでは25%がそう思わないと回答した。このことから、基礎クラスの生徒は、授業が分からず英語に自信がもてないという生徒がいるということが考えられる。

(4) 領域別テストの結果より

リスニングと対話文の読解では、正答率が50%を越えている。特に、リスニングでは、英文で答えを書く問題の正答率が7%となっているが他は80%を越えるものもあり、得意としている生徒が多いことがわかる。一方で、物語文の理解については正答率が41%であり、初めて見る英文の読解が苦手な生徒が多いと考えられる。

3 教科における指導の重点事項

- (1) 文法と語彙を定着させられるように指導を工夫する。
- (2) 初めて見る英文を読む力を付ける。
- (3) 家庭学習の習慣を身に付けさせる。

4 授業の改善策

- (1) 新出の文法や語彙について、すべての生徒が習得できるよう、ICTを活用してわかりやすく文法を指導すると共に、練習問題が解けているかを授業内でチェックし、分からない部分は丁寧に解説する。
- (2) 短い文章の読解から始め、初めて見る英文の読み方を指導する。長い文章を読む際には、時間を区切るなどして、集中力が持続するよう工夫する。
- (3) 毎回の授業で宿題を出すとともに、これまでの復習をするよう指導し、苦手な部分を克服するための学習を過程で行うよう指導する。